

9教科の学習計画とシラバス

3年生

【生徒の皆さんへ】

授業を理解し、充実した学校生活を送るために、家庭で学習する習慣を身につけることがとても大切です。家庭での学習内容は、宿題・テスト勉強・受験勉強等があります。しかし、どのように勉強すればいいのか分からないという人もいます。

そこで、家庭学習を進めていく上でのヒントとして、「9教科の学習計画とシラバス」を配布します。このリーフレットを読み、何をすればよいかをしっかりと理解して、自学自習する学習習慣を身につけましょう。

【この冊子の内容】

この冊子には、9教科のより細かな学習内容を掲載しています。どの時期にどのような内容を学習するのかをお知らせし、家庭学習の計画を立て、目標をもって学習をすすめやすくなっています。さらに、観点別に評価の内容を掲載していますので、何をがんばればよいのかもわかるようになっています。

小テストや実技テストなど自分の苦手な内容を予習することで苦手克服につながる学習もできます。ぜひ、この冊子を活用して、どんどん自分の実力を伸ばしましょう！！

【ご家族の皆さんへ】

家庭での学習習慣をしっかりと身に付けるきっかけとしてこのリーフレットをご利用いただき、お子様と中学校の学習について話し合ってみてください。

2024年度

葛城市立白鳳中学校

奈良県葛城市長尾14番地1

TEL 0745-48-2054 FAX 0745-48-3451

(E-mail) hakuhou-chu@katsuragi.ed.jp

(Homepage) <https://www.city.katsuragi.nara.jp/hakuhouchu/>

3年 組 番 生徒氏名

目 次

p. 3	国 語 科
p. 4	社 会 科
p. 5	数 学 科
p. 7	理 科
p. 9	音 楽 科
p. 10	美 術 科
p. 11	保 健 体 育 科
p. 13	技 術 ・ 家 庭 科
p. 16	英 語 科

※年間の学習計画は、予定ですから、変更する場合があります。予めご了解下さい。

※シラバス (Syllabus) とは、日本では講義・授業の大まかな学習計画のこと。

本校では、次のように考えています。

- ① 各教科の1年間の学習計画、学習内容、評価の観点と基準を示す。
- ② 生徒が授業前の予習、授業での学習、授業後の復習を、計画と目標をもって行えるようにする。

家庭での学習はとても大きな意味を持ちます。このリーフレットは家庭での学習の計画を立て、
頑張るところを理解して学習に取り組めるように作成しました。特に、学校の授業で学習したことを
定着させる復習は次の授業につながる大切な学習方法です。家庭での学習を大切にしましょう。

授業を受ける前に……

1. 教科書やノートなどの**持ち物**を忘れない。
2. 授業を受けるときの**前向きな姿勢や気持ち**を大切にする。
3. 授業後は家庭での**復習**を大切にする。

授業での学習の進め方

1. 準備

- ★時間を守るチャイムと同時に授業開始の挨拶をしましょう。
(机の周辺を整理し、カバンは後ろのロッカーに入れておきます。)
- ★机の上には学習用具(筆記用具・教科書・ノート・ワークなど)の準備を完了しておきましょう。

2. 授業中

- ★先生の話聞くことを大切にして、ノートを丁寧に記録しましょう。
- ★先生の質問には、積極的に手をあげて、みんなによく聞こえる声で答えましょう。
- ★ペアやグループでの学習では、教え合ったり、説明したり、なかまの言うことを理解しようとしたりしましょう。

3. 授業後

- ★学習したことをもう一度振り返って、ワークの問題を解いたり、書いたりしましょう。

家庭での学習の進め方

1. 予習

次の授業で学習する内容をノートに写しておきましょう。国語であれば漢字、英語であれば単語や熟語など、前もって自分で書いたり調べたりできることを授業の前におきましょう。

2. 復習

授業を受けたそのとき分かったこと・覚えたことも一日一日記憶から消えていきます。だから、理解したつもり、覚えたつもりで終わるのではなく、繰り返し何度も書いたり、覚えたり、考えたりすることで知識が定着します。復習の仕方として、自主勉強(学習)を作って活用しましょう。

- ①ワーク等を使って、色々な問題を解きましょう。
- ②何度も書いて覚えましょう。大切な語句、漢字、単語などを自主勉強(学習)ノートに自分は何回くらい書けば覚えられるのか最適な回数を見つけておきましょう。
- ③何度も教材文を読みましょう。
- ④実験したことを、実験順、結果などを思い出しながら自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。
- ⑤調べたことや分かったことを自主勉強(学習)ノートにまとめましょう。

※自分にあった勉強方法を見つけるのは大変面倒で、むずかしいものです。しかし、苦労しながら身に付けた勉強方法は、自分にぴったりあった自分だけの方法です。そこへ行き着くまで、**あきらめずに続けましょう。**

◇国語科 年間の学習計画とシラバス

国語科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(国語科の目標)

国語科では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を身に着けます。

(授業で使用するもの) ・教科書 ・ノート ・ワーク ・国語便覧 ・ファイル ・クリアファイル

(評価の観点・方法)

国語科の評価は、日常の学習への取り組みや定期テスト、ノート、提出物などをもとに総合的に判断しています。具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テスト、課題や提出物(ワークなど)の内容、書写などで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
授業中の発言、定期テスト、小テスト、作文、スピーチなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
小テスト、課題や提出物、授業中の態度等で評価します。

国語科3年 年間の学習計画と学習のねらい(週3時間/年105時間)

学期	主な学習内容	学習のねらい
1	オリエンテーション ・握手 ・学びて時にこれを習ふ—「論語」から ・作られた「物語」を超えて ・漢字1 熟語の読み方 ・俳句の可能性 ・俳句を味わう ・文法への扉1—すいは幾つ必要? ・言葉1 漢語・和語・外来語	・学習の目標、授業の受け方、家庭学習の仕方などを考え計画をたてる。 ・筆者の人間などに対する思いを読み取り、その思いに対する自分の考えを書くことができる。 ・「論語」の教材作品を読み、孔子のものの見方や考え方を読み取る。 ・これからの自分について考えるために、人間・社会・自然などについて考え、自分の意見を持つ。 ・熟語に関する知識を広げ、文や文章の中で読んだり使ったりできる。 ・「俳句の可能性」を通読し、俳句の特色などを知るとともに五句それぞれに込められた心情、情景を想像できる。 ・文の成分の順序や構成など、文法についての理解を深め、日常生活や学校生活の中での現や読解に生かせる。
2	・挨拶—原爆の写真によせて ・言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語 ・古今和歌集 仮名序 ・君待つと 一万葉・古今・新古今 ・夏草—「おくのほそ道」から ・文法への扉2—「ない」の違いがわからない?	・作者のものの見方や考え方が表されている表現や使われている語句の効果に着目し、人間や社会について考えられる。 ・語彙を増やし、表現に生かす。 ・比喩表現などの表現上の工夫に注意しながら「古今和歌集 仮名序」の冒頭部分を音読し、古典の世界に親しむことができる。 ・歴史的な背景に注意して古典の和歌を読み、昔の人の心情や情景を読み味わうとともに、和歌に歌われている人間や自然などについて、自分の考えをもつことができる。 ・歴史的背景を想像しながら「おくのほそ道」を読み、作者のものの見方や感じ方を読み取ることができる。 ・2年までに学習した文法の知識を確かめ、理解を深める。
3	・漢字2 漢字の造語力 ・文法 紛らわしい品詞の識別 ・これまでの学習のまとめ	・漢字の造語力について知り、語彙を豊かにし、文や文章の中で使うことができる。 ・これまでの文法学習を踏まえ、総合的な力をつける。 ・3年間の学習を振り返って、より実践的な力をつける。

◇社会科 年間の学習計画とシラバス

社会科は、3年間通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(社会科の目標)

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。【中学校学習指導要領より】

(授業で使用するもの)

【必ず必要】 ・各分野の教科書 ・ノート

【必要に応じて】 ・ワーク タブレット

(評価の観点・方法)

社会科では、定期テストの点数だけでなく、授業中の小テストやノート・ワークなどの提出物、授業への取り組む姿勢(態度や忘れ物)、グループワークでの取り組みなどを、観点別に総合的に評価します。観点とは、以下の評価する基準です。それぞれ、規準を設け(例:何点以上取れているか・提出物を出しているか、またその内容はどうかなど)A・B・Cの3段階で評価します。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テスト など
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト、ノート、ワークシート、レポート作成 など
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、ワーク、課題提出、授業態度、小テスト、グループワークでの取り組み など

社会科3年 年間の学習計画(週4時間/年 140 時間)

	1学期	2学期	3学期
学 習 内 容	【歴史的分野】 ○第5編 近代の日本と世界 第1章 日本の近代化 ④ 近代国家への歩み ⑤ 日清・日露の戦争と東アジアの動き ⑥ 近代の日本の社会と文化 第2章 二度の世界大戦と日本 ① 第一次世界大戦と戦後の世界 ② 大正デモクラシーの時代 ③ 世界恐慌と中国との戦争 ④ 第二次世界大戦と日本 ○第6編 現代の日本と世界 ① 平和と民主化への動き ② 国際化する世界と日本 【公民的分野】 ○第1編 私たちと現代社会 ① 私たちが生きる現代社会の特色考え方	② 現代社会の文化と私たち ③ 現代社会をとらえる見方や ○第2編 私たちの生活と政治 ① 法に基づく政治と日本国憲法 ② 日本国憲法と基本的人権 ③ 日本の平和主義 ○第2編 私たちの生活と政治 ・第2章 国民主権と日本の政治 ① 民主政治と政治参加 ② 国の政治のしくみ ③ くらしを支える地方自治	○第3編 私たちの生活と経済 ① 経済のしくみと消費生活 ② 生産の場としての企業 ③ 金融のしくみとお金の大切さ ④ 財政と国民の福祉 ○第4編 私たちと国際社会 ① 国家と国際社会 ② 国際社会の課題と私たちの取り組み ○第5編 私たちの課題 持続可能な社会をめざして ○入試対策問題演習

◇数学科 年間の学習計画とシラバス

数学科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(数学科の目標)

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワーク ・直定規 ・コンパス(必要に応じて) ・色鉛筆(色ペン)

(数学科の学習の進め方)

1. 学習があった日に、学習した内容を家庭で復習しましょう。
2. 学習したことを理解、活用できるようになるために、自分にあった学び方を考え、計画的に取り組みましょう。
うまく成果が現れないときは、学び方(やり方など)を修正したり、先生に相談したりしましょう。
3. 演習をしっかりと行いましょう。
知識、技能の習得、または活用するために、プリントやワークがあります。これらをしっかりと取り組み、提出しましょう。

(評価の観点)

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。

【観点1. 知識・技能】
数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解しているか、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けているかを評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けているかを評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
数学を生活や学習に生かそうとしたり、自らの学習を調整したりしながら、よりよく学ぼうとする意欲を評価します。また、定期テストの中にある1・2年生で学習した計算の方法を復習できているかを評価します。

数学科3年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	月	学習内容	学習のねらい	
1	4	オリエンテーション	・学習の目標、授業の受け方、家庭学習の仕方などを考え計画をたてる。	
		確率	・確率の意味を知る。 ・身近な確率の問題を解けるようになる。	
	5	1. 式の展開と 因数分解	・単項式と多項式の乗除について理解し、計算ができるようになる。 ・多項式の展開ができるようになる。 ・展開から乗法公式を導き、必要に応じて利用できるようになる。 ・具体的な操作を通して因数分解の意味を理解する。 ・乗法公式や因数分解を利用して数や図形の性質を説明することができる。	
			2. 平方根	・平方根の必要性和意味を理解し、平方根のおよその値を求めることができる。 ・有理数と無理数について学び、数の範囲の広がりについて理解する。 ・素数について理解し、素因数分解ができるようになる。 ・平方根の四則計算ができるようになる。
				3. 2次方程式
	2	8	4. 関数 $y=ax^2$	
		9		5. 相似な図形
10		6. 円	・円周角と中心角の関係を理解し、角度の計算ができるようになる。 ・接線の性質を理解し、三角形の相似の証明に円の性質を使うことができるようになる。	
11			7. 三平方の定理	
12		8. 標本調査		・標本調査の必要性和意味、標本の大きさや推定値の信頼性の関係を理解する。 ・簡単な場合についての標本調査を行い、母集団の傾向をとらえることができるようになる。
3	1		中学校数学のまとめ	・3年間の学習を振り返り、知識のまとめと演習を行う。
	2			

◇理科 年間の学習計画とシラバス

理科は、3年間を通じて次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(理科の目標)

理科を通じて、自然の事物現象に対して興味や関心を持ち、実生活と関連付けたりしながら科学的な知識や理解の定着を図り、また、観察や実験を通して、技能を身につけるとともに科学的な見方や考え方、表現力を育て問題解決能力の基礎を養うことを目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワーク ・ファイル

(学習のポイント)

- ・授業をしっかり聞いて、黒板の板書をノートや授業プリントに丁寧に写しましょう。
- ・ワークやプリント、マイノートなどを使って授業の復習をしましょう。
- ・宿題などの提出物は、しっかりと仕上げ、期限を守って提出しましょう。
- ・理科はなぜ？どうして？の学問なので、その疑問を解決できるように学習に取り組みましょう。
- ・観察や実験では、ただ手を動かすだけでなく、なぜ？どうして？と考えながらやるようにしましょう。
- ・普段から自然・天体現象に興味を持ち、科学番組や自然番組を見るように心がけましょう。
- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、それらへの粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面を意識して取り組みましょう。

(評価の観点・方法)

理科では、日常の学習への取り組みや定期テスト、提出物などをもとに総合的に評価しています。

具体的には次の3つの観点において、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づき評価しています。

よく内容を確認して、学習に取り組むようにしましょう。

【観点1:知識・技能】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点2:思考・判断・表現】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、発表、話し合い活動などで評価します。
【観点3:主体的に学習に取り組む態度】
定期テスト、小テスト、ノート、ワーク、課題プリント、実験・観察レポート、発表、授業への取り組み方などで評価します。 ※ノートやワーク、実験・観察レポートに必要事項を書いて提出すれば良い評価になるというわけではありません。 また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、それらへの粘り強い取組を行う中で、自ら学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価をします。そのため、観点1及び2の状況を踏まえた上での評価となります。

理科3年 年間の学習計画と学習のねらい（週4時間/年140時間）

3学期制		単元	章	生徒観察・実験
1 学 期	4月 (11)	[生命] 生命の連続性 (20+3)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 生物のふえ方と成長 (8) 2章 遺伝の規則性と遺伝子 (6) 3章 生物の種類の多様性と進化(4)	観察1 細胞分裂をするときの細胞の変化【顕】 探Q実習1 遺伝のモデル実験
	5月 (13)		力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 鳥類は恐竜から進化した?	
	6月 (16)	[物質] 化学変化とイオン (27+2)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 水溶液とイオン (8) 2章 電池とイオン (7) 3章 酸・アルカリと塩 (10)	実験1 電流が流れる水溶液【源】 実験2 うすい塩酸の電気分解【源】 探Q実験3 金属のイオンへのなりやすさ 実験4 ダニエル電池の製作 実験5 酸性やアルカリ性の水溶液に共通する性質 実験6 酸性やアルカリ性を決めているもの【源】 実験7 酸とアルカリを混ぜたときの変化【顕】
7月 (8)	力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 化学電池と未来			
2 学 期	9月 (15)	[エネルギー] 運動とエネルギー (34+2)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 力の合成と分解 (7) 2章 物体の運動 (10) 3章 仕事とエネルギー (8)	実験1 水中の物体にはたらく力 実験2 角度をもってはたらく2力の合成 実験3 台車に一定の力がはたらき続けるときの運動 探Q実験4 斜面上での台車の運動 実験5 道具を使った仕事 実験6 物体のもつエネルギーと高さや質量の関係 実験7 物体のもつエネルギーと速さや質量の関係 実験8 エネルギーの変換
	10月 (16)		4章 多様なエネルギーとその移り変わり(3) 5章 エネルギー資源とその利用 (4)	
	11月 (16)		力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) エネルギーをみんなに そしてクリーンに	
3 学 期	12月 (10)	[地球] 宇宙を観る (20+2)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 地球から宇宙へ (5) 2章 太陽と恒星の動き (8) 3章 月と金星の動きと見え方 (5)	観察1 太陽の表面の観察 観測1 太陽の1日の動き 観測2 星の1日の動き 探Q実習1 金星の見え方の変化
	1月 (12)		力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) 大きさをこえてさぐる太陽系の歴史	
	2月 (15)	[環境] 自然と人間 (27+3)	単元導入 (1), 学ぶ前にトライ! 1章 自然界のつり合い (5) 2章 さまざまな物質の利用と人間 (5) 3章 科学技術の発展 (3) 4章 人間と環境 (8) 5章 持続可能な社会をめざして (4)	実験1 微生物による有機物の分解【ガ】 実験2 プラスチックの性質【ガ】
3月 (8)	力だめし, 学んだ後にリトライ! (1) かけがえのない地球とともに			
(140)	年間配当時数 128時間+予備12時間			

※授業の進度はあくまでも目安です。

※()内の数字は, それぞれの配当月, 単元, 章での時数を示しています。+で示した数字は, 予備時間です。

※【季】は季節的な影響を受ける観察・実験を示しています。

※【顕】は顕微鏡を使用する観察・実験, 【ガ】はガスバーナーを使用する観察・実験, 【源】は電源装置を使用する実験を示しています。

◇音楽科 年間の学習計画とシラバス

音楽科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(音楽科の目標)

- (1)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てることを目標とします。
- (2)多様な音楽表現の豊かさ美しさを感じ取り、基礎的な表現の技能を身に付け、創意工夫して表現する能力を育てることを目標とします。
- (3)多様な音楽のよさや美しさを味わい、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てることを目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書2・3年上下 ・ワーク2・3年上下 ・器楽の教科書 ・ワーク ・アルトリコーダー

(評価の観点・方法)

音楽科では、授業態度や実技テスト、定期テスト、提出物などをもとに総合的に判断しています。

具体的には以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を決め、それに基づいて評価します。提出物は指示があったら、必ず提出しましょう。

(評価基準)各領域ごとの評価のめやす(評価基準)

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の工夫(理解) ・鑑賞の能力(理解) ・提出物(プリントやワーク) ・歌唱及び器楽のテスト ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現の工夫(思いや意図をもつ) ・歌唱及び器楽のテスト ・鑑賞の能力(よさや美しさを味わう) ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み方 ・授業準備物 ・提出物(プリントやワーク) ・定期テスト

音楽科3年 年間の学習計画と学習のねらい(週1時間/年35時間)

学期	学習内容:教材	学習のねらい
1	歌唱「花」「花の街」	速度や強弱、テクスチュアなどから特徴を捉え、主旋律を意識したり、声部の役割を理解しながら歌う。
	アルトリコーダーに親しもう	創意工夫を生かした表現で演奏する。
	鑑賞「ブルタバ」	曲想と音楽の特徴との関わりに注目し、作品にこめられた思いを感じ取って聴く。
2	鑑賞「アイダ」から	登場人物の気持ちを想像しながら、オペラのよさや美しさを味わう。
	アルトリコーダーアンサンブルを楽しもう	声部の役割を理解し、表現を工夫しながら合わせて演奏する。
	合唱(校内音楽会)	他の声部を意識し、全体の響きに調和させ充実感を持って歌うことができるようにする。詩の内容を理解し、他の声部とともに表現豊かに歌うことができるようにする。
	創作	音やリズムの組み合わせを考え、意欲的に創作する。
3	歌唱「帰れソレントへ」	速度や強弱、転調などによる曲想の変化を味わいながら歌う。
	鑑賞「世界の音楽」	世界のさまざまな音楽を聴き、その良さを味わう。
	鑑賞「ボレロ」	楽器の音色に親しみながら、オーケストラの響きを味わう。
	卒業式の歌 「式歌」 「旅立ちの日に」	卒業式に向けて、より感動的な音楽活動を体験できるよう、卒業生としての意識を高め、より豊かな響きで音楽を創り上げる。 全校生で合唱することにより、声や心の調和を実感させ、それが生涯にわたり忘れられない感動になるよう創り上げていく。

◇美術科 年間の学習計画とシラバス

美術科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(美術科の目標)

- ・日常生活の身近なものの中から美しい形や色彩を見つけ出し美との出会う喜びを味わわせることを目標とします。
- ・自分がイメージした形や色を描けたりつくれたり、また、そこから発想を広げていける能力や感覚を育てることを目標とします。

(授業で使用する基本的な準備物)

- ・教科書
- ・美術資料集
- ・鉛筆(HB～2B程度の濃さ)
- ・色鉛筆
- ・彫刻刀
- ・アクリルガッシュ(セットは学校で販売します)
- ・のり
- ・その他材料

(美術科の学習の進め方)

1. 授業中は決められた席で作業し、指示がない限り席を移動しないようにしましょう。
2. 忘れ物をしたときは、授業の初めに教科担当の先生に連絡をしましょう。
3. 学校の備品や道具を使用するときは、教科担当の先生に許可をもらいましょう。
4. 時間内での未完成作品については、教師の指示に従い提出期限を守りましょう。

(評価の対象)

- ・作品
- ・定期テスト
- ・授業の態度
- ・忘れ物
- ・振り返りシート

(評価の観点と方法)

観点1	観点2	観点3
・表現方法を工夫し創造的に表す技能	・発送や構想に関する資質、能力	・表現活動における主体的に学習に取り組む態度。 ・造形的な視点を豊かにするための知識
・作品 ・振り返りシート ・テスト	・図案プリント ・作品 ・振り返りシート ・テスト	・授業への取り組み方 ・テスト

美術科3年 年間の学習計画と学習のねらい(週1時間/年35時間)

学期	学習内容	ポイント	評価
1	・篆刻を彫る。	・篆書体について学ぶ。	・材質の特性を生かして、ていねいな作業をしている。 ・振り返りシートを活用
2	・パッケージデザイン	・商品を魅力的に伝えるデザインを考えられているか	・振り返りシートを活用する。
3	・平面構成 ・線による表現	・形や明暗をいかに線で表現できるか	・明暗の段階が線で表現できる

◇保健体育科 年間の学習計画とシラバス

保健体育科は、3年間を通じて次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(保健体育科の目標)

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のために実践力と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることを目標とします。

(体育分野の目標)

- ①(1、2年)運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにするとともに、知識や技能を身に付け、運動を豊かに実践することができるようにします。
(3年) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにします。
- ②(1、2年)運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。
(3年) 運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る態度を育て、心身の調和的発達を図ります。
- ③(1、2年)運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組み、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善をつつして運動する態度を育てます。
(3年) 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、参画するなどの意欲を育てると共に、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てます。

(保健分野の目標)

個人生活における健康・安全に関する理解を通して、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく脂質や能力を育てる。

(評価の観点及びその趣旨)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身につけている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者につたえている。また、個人における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切に、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

(体育分野の評価の観点・方法)

知識・技能	思考・判断・	主体的に学習に取り組む態度
各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。

(3年) 選択した技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	(3年) 生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。	(3年) 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を持ち、健康・安全に確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。
定期テスト 小テスト 発問に対する発言内容 実技テスト 行動観察 (練習・試合での技能)	学習カード・プリント 学習ノート 行動観察 (練習内容・質問内容)	授業態度 (出欠席・見学・遅刻・服装・忘れ物)(協力・発言、試技回数) 学習カード・ノート・プリント提出

(保健分野の評価の観点・方法)

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達や心の健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。
定期テスト 小テスト 発問に対する発言内容	学習ノート 学習プリント 行動観察	授業への取り組み方(忘れ物・発言) 学習ノート・プリント提出

保健体育科3年 年間指導計画(週3時間/年105時間)

学期	男子	女子	保健・体育理論	体育的行事
1	体づくり運動 球技(ネット型) 陸上競技 水泳	体づくり運動 陸上競技 球技(ネット型) 水泳	・健康と環境 ・健康な生活と病気の予防 ・文化としてのスポーツの意義	スポーツテスト(6月)
2	体づくり運動 ダンス 球技(ネット型) 球技(ゴール型)	体づくり運動 ダンス 球技(ゴール型)		体育祭(10月)
3	球技(ネット型) 球技(ゴール型)	球技(ネット型)		

◇技術・家庭科 年間の学習計画とシラバス

技術科

技術科は、年間を通じて次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(学習目標)

生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を身につけることを目標とします。

(学習内容)

3年間で技術分野は「材料と加工の技術」「エネルギー変換の技術」「生物育成の技術」「情報の技術」の4項目が学習内容になっています。これまで、「材料と加工の技術」「エネルギー変換の技術」「情報の技術」を学習してきました。3年生では、「生物育成に関する技術」について学習予定です。内容は、生物育成について・栽培の技術について・栽培の実習・社会や環境との関わりについて学習します。

(授業で使用するもの)

・教科書・ノート(プリントを貼る用)・授業中に配布するプリント

(評価の観点)

観点1 知識・技能	観点2 思考・判断・表現	観点3 主体的に取り組む態度
生活や社会で利用されている生物育成の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。	生活や社会の中から技術に係わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。
評価の方法 ・テスト ・授業プリント ・技能課題 など	評価の方法 ・話し合い活動 ・授業プリント ・発表 ・テスト など	評価の方法 ・授業への取り組む姿勢 ・授業プリント ・提出物 ・テスト など

技術科3年生の学習計画(2学期・週1時間、3学期・隔週1時間/年17.5時間)

期間	学習内容(時数)	学習のねらい
2~3 学期	・生物育成について	・生物育成に関する技術の役割を理解することができる。
	・栽培の技術について	・畑での栽培方法(土壌、肥料、播種、間引き、灌水、摘芽、摘心、収穫)を理解することができる。栽培の計画の大切さを理解することができる。
	・栽培の実習	・実際に植物を栽培することができる。
	・社会や環境との関わり	・生物育成の技術と社会・環境との関わりを理解し、生物育成の技術について自分の意見を持つことができる。
	3年間の復習	・中学3年間技術科で学んだことを振り返り、これからの社会と技術の関わりについて自分の意見を持つことができる。

(学習方法について)

『学校』

- ・授業に必要なものをきちんと準備しましょう。
- ・先生の指示以外でも、気付いたことや重要だと思ったことは、プリントや教科書にどんどん書き込んでいきましょう。
- ・プリントの記入をしっかりとしましょう。
- ・実習では、植物を栽培します。きちんと管理を行いましょう。

『家庭』

- ・学習した内容の復習を行い、定着させましょう。
- ・身の回りの技術について、興味を持ってみましょう。学校で勉強した技術を身の回りから探してみましょう。
- ・何か授業内容以外の技術について疑問に思ったことがあれば、調べてみましょう。

◇家庭科

家庭科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(家庭科の目標)

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を、養うことをねらいとします。

1. 家庭科3年 学習のねらい

学習のねらい	<p>【衣生活・住生活と自立】</p> <p>①美術科と共同で、体育祭に向けて法被製作を行うことで、学年の一員として生活しているという自覚を持つ。</p> <p>【身近な消費生活と環境】</p> <p>①消費生活のしくみを理解し、家庭生活での計画的な金銭の管理の必要に気づく。</p> <p>②物資、サービスの選択と購入に必要な基本的な知識と技能を習得し、計画的な金銭管理の工夫ができるようにする。</p> <p>③売買契約の仕組み、消費者市街の背景とその対応、消費者の権利と責任、消費者を支える仕組みについて理解する。</p> <p>④消費者の行動が社会の環境に与える影響について理解し、より良い消費行動のあり方を考える。</p>
	<p>使用教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭 家庭分野（開隆堂） ・家庭ワークノート（地域教材社）

2. 評価の観点および方法(テスト前やテスト後に指示があったら、忘れずに提出しましょう。)

	評価の観点	評価の方法
①知識・技能	<p>家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト ・学習プリント ・計画・実践記録表 ・行動観察など
②思考・判断・表現	<p>これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い等の学習活動 ・学習カード ・計画・実践記録表 ・活動記録をまとめたポートフォリオ ・行動観察など
③主体的に学習に取り組む態度	<p>家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察(授業中の発言) ・学習プリントやノート ・計画・実践記録表等 ・タブレット等によるレポート

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テスト、実技テストで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
学習活動、学習プリント、レポート、活動記録で評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
ノートやレポート等における記述、授業中の発言や取り組む姿勢で評価します。

3. 学習計画(週 0.5 時間 / 年 17.5 時間)

学期	学習内容(時数)	学習のねらい
1, 3	《衣生活・住生活と自立》 1. 製作して、活用しよう	・ミシンを正しく安全に使い、生活に役立つ小物を作ることができる。 《知・技、思・判・表、主》
	《身近な消費生活と環境》 1. 家庭生活と消費	・消費生活のしくみを理解し、家庭生活での計画的な金銭の管理の必要に気づく。《知・技、思・判・表、主》
	2. 商品の選択と購入	・物資、サービスの選択と購入に必要な基本的な知識と技能を習得し、計画的な金銭管理の工夫ができるようにする。《知・技、思・判・表、主》
	3. よりよい消費生活のために	・売買契約の仕組み、消費者市街の背景とその対応、消費者の権利と責任、消費者を支える仕組みについて理解する。《知・技、思・判・表、主》
	4. 環境に配慮した生活	・消費者の行動が社会の環境に与える影響について理解し、より良い消費行動のあり方を考える。《知・技、思・判・表、主》

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・プリント ・映像機器 ・ICT 機器

(学習方法について)

『学校』

- ・授業に必要なものを準備しましょう。
- ・授業は積極的に取り組み、プリントやノートも見やすくまとめましょう。
- ・実習は学んだことを体験する貴重な機会です。真面目に取り組みましょう。

『家庭』

- ・学習したことを家で実践し、復習と定着に努めましょう。
- ・授業を自分の家庭生活をふり返る機会とし、より良くする手だてを各自でよく考えましょう。
- ・新聞やテレビなどからの、生活に関わる情報に関心を持ちましょう。

◇英語科 年間の学習計画とシラバス

英語科は、3年間を通して次のような目標を立て、観点別評価を行います。

(英語科の目標)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと(やり取り・発表)、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質能力を養う事を目標とします。

(授業で使用するもの)

・教科書 ・ノート ・ワークブック ・タブレット ・ファイル

(評価の観点・方法)

英語科では、以下の3つの観点を設け、それぞれについて評価の目安を定め、それに基づいて評価します。定期テスト、単元テスト、パフォーマンステストについては、日々の予習復習に加え、事前の準備をしっかりとしましょう。ノート、ワーク、単語テストの取組については、内容や質を重視します。学習の手引きを参考にして、日々主体的に取り組ましましょう。

【観点1. 知識・技能】
定期テスト、小テストなどで評価します。
【観点2. 思考・判断・表現】
定期テスト、単元テスト、パフォーマンステストなどで評価します。
【観点3. 主体的に学習に取り組む態度】
授業への取り組み方、ノート・ワークの内容、小テストなどで評価します。

英語科3年 年間の学習計画と学習のねらい(週4時間/年 140 時間)

学期	学習内容	学習内容
1	オリエンテーション	・外国語学習の目的・授業の受け方、準備物、評価について、 家庭学習の方法等の説明。
	2年生の復習	・受動態の肯定文・疑問文・否定文の形・意味・用法
	【Unit 1】 Food Culture	・現在完了形(経験・完了用法)の肯定文・疑問文・否定文 ・世界の様々な食文化について
	【Let's talk 1】	・食べ物などを勧める
	【Unit 2】 Living Side by Side	・現在完了形(継続用法)の肯定文・疑問文・否定文
	【Let's talk 2】	・体調・症状を説明する。
	【Unit 3】 Passing Down Message	・間接疑問文 ・疑問詞 + to 動詞原形
	【Let's talk 3】 【Let's listen 1】	・道案内、乗り換え案内する ・機内放送を聞く

2	【Project 1】 インタビュー	インタビュー原稿を書いて発表する
	【Unit 4】 Society for all	・make 人 形容詞 ・want 人 to 動詞原形 ・help 人 動詞原形 ・点字ブロックを開発した日本人、ユニバーサルデザイン
	【Let's talk 4】	・電話で伝言を頼んだりする
	【Unit 5】 What Can Photos Tell?	・関係代名詞 who (主格) ・関係代名詞 that / which (主格) ・関係代名詞 that / which (目的格) ・写真で見る歴史的な出来事 ・自分の好きな有名人を紹介する
	【Let's Talk 5】	・感想を伝え合う
	【Unit 6】 Lively Towns in Japan	・分詞の形容詞的用法 ・仮定法 if / I wish ~ ・地域の活性化について(説明文) 自分の住む町・市・県を紹介する
	【Let's Talk 6】	・道案内所要時間や料金をたずねる
	【Let's Listen 2】	ツアーガイドの案内を聞く
【Project 2】	日本の伝統行事を紹介しよう	
3	【Further Study】 ディスカッションしよう	
	【Let's Read 1】	・『最後の一葉』
	【Let's Read 2】	・『折り紙で日本を結んだ日本人』